



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月30日

上場会社名 江崎グリコ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2206 URL <http://www.glico.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江崎勝久

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 松本節範

TEL 06-6477-8404

四半期報告書提出予定日 平成26年2月3日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	246,202	9.6	12,282	121.0	13,845	104.3	9,681	163.7
25年3月期第3四半期	224,590	△0.3	5,556	△27.5	6,776	△13.0	3,671	19.7

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 14,894百万円 (216.3%) 25年3月期第3四半期 4,708百万円 (143.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	79.70	—
25年3月期第3四半期	32.30	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	244,919	144,055	57.6	1,076.12
25年3月期	219,363	116,347	52.1	1,004.66

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 141,079百万円 25年3月期 114,296百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
26年3月期	—	5.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	10.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	315,000	7.5	10,500	131.3	11,700	81.3	8,200	149.5	66.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	138,860,138 株	25年3月期	144,860,138 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	7,759,595 株	25年3月期	31,093,973 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	121,472,131 株	25年3月期3Q	113,670,672 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）におけるわが国経済は、アベノミクスによる経済政策の効果等により、景気は緩やかな回復基調にありますが、米国の金融緩和縮小による影響や新興国経済の先行きに加え、消費税増税による消費低迷等が懸念され、依然として不透明な状況が続いております。食品業界におきましては、円安による原材料価格の上昇等によって、取り巻く経営環境は一段と厳しい状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、原材料価格の上昇に応じた製品規格の見直しに着手するとともに、主力品の売上拡大や新製品・系列品の発売、店頭での特売対策等を積極的に展開いたしました。

その結果、売上面では、食品部門、畜産加工品部門は前年同期を下回りましたが、菓子部門、冷菓部門、牛乳・乳製品部門、食品原料部門、その他部門が前年同期を上回ったため、当四半期連結売上高は246,202百万円となり、前年同期（224,590百万円）に比べ、9.6%の増収となりました。

利益面につきましては、売上原価率は、原材料価格の上昇によるアップ要因はありましたが、タイ子会社の洪水被害からの復旧等により、全体ではダウンしました。販売費及び一般管理費では、量販店店頭での販売対策の実施等により販売促進費等が増加したものの、経費は削減に努めた結果減少しました。その結果、営業利益は12,282百万円で前年同期（5,556百万円）に比べ6,725百万円の増益となり、経常利益は13,845百万円で前年同期（6,776百万円）に比べ7,068百万円の増益となりました。また、投資有価証券償還益及び売却益を特別損益に計上した結果、四半期純利益は9,681百万円となり、前年同期（3,671百万円）に比べ、6,010百万円の増益となりました。

各セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

#### ・セグメント別の概況

(単位：百万円、%)

セグメント)	売上高			営業利益		
	当第3四半期 累計期間	対前年 増減額	対前年 同期比 (%)	当第3四半期 累計期間	対前年 増減額	対前年 同期比 (%)
菓子	72,497	14,140	124.2	4,358	4,687	—
冷菓	58,956	5,000	109.3	3,963	△132	96.8
食品	16,861	△1,551	91.6	△110	176	—
牛乳・乳製品	71,452	3,807	105.6	2,405	1,551	281.8
畜産加工品	15,328	△569	96.4	564	943	—
食品原料	7,019	469	107.2	204	△283	42.0
その他	4,087	314	108.3	189	182	—
調整	—	—	—	705	△399	63.8
合計	246,202	21,611	109.6	12,282	6,725	221.0

#### <菓子部門>

売上面では、「キスミントガム」等は前年同期を下回りましたが、「ポッキーグループ」、「アーモンドピーク」等が前年同期を上回り、新製品「神戸ローストショコラ」、「バトンロール」等も順調に売上を伸ばしました。また、海外では、洪水被害を受けたタイの子会社が復旧し、上海の子会社と同様に前年同期を上回りました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は72,497百万円となり、前年同期(58,357百万円)に比べ24.2%の増収となりました。

利益面では、タイの子会社が洪水被害から全面復旧したことや、国内での増収等により、営業利益は4,358百万円となり、前年同期(△329百万円)に比べ、4,687百万円の増益となりました。

#### <冷菓部門>

売上面では、「パリッテ」等は前年同期を下回りましたが、「ジャイアントコーン」、「パピコ」等は前年同期を上回りました。また、関西の卸売販売子会社も前年同期を上回りました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は58,956百万円となり、前年同期(53,955百万円)に比べ9.3%の増収となりました。

利益面では、東北の卸売販売子会社の減収による粗利減等により、営業利益は3,963百万円となり、前年同期(4,096百万円)に比べ、△132百万円の減益となりました。

#### <食品部門>

売上面では、“カレー職人”、“炊き込み御膳”等は前年同期を上回りましたが、“2段熟カレー”等のルウ製品は前年同期を下回りました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は16,861百万円となり、前年同期(18,413百万円)に比べ8.4%の減収となりました。

利益面では、減収と売上原価率のアップ等により、営業損失は△110百万円となりましたが、前年同期(△286百万円)に対しては、販売促進費及び広告費の削減に努めた結果、176百万円の損失減となりました。

#### <牛乳・乳製品部門>

売上面では、“朝食プロバイオティクスヨーグルト”、“ドロリッチ”、“ストローでたべる朝食ヨーグルト”等が前年同期を上回りました。一方、キリンビバレッジ(株)からの業務受託による売上は前年同期を下回りました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は71,452百万円となり、前年同期(67,644百万円)に比べ5.6%の増収となりました。

利益面では、販売促進費、広告宣伝費等は増加しましたが、増収や販売品種構成の変化に伴う売上原価率のダウン等により、営業利益は2,405百万円となり、前年同期(853百万円)に比べ、1,551百万円の増益となりました。

#### <畜産加工品部門>

売上面では、ベーコンは前年同期を上回りましたが、ハム、ソーセージ、“パリパリサラダ”等が前年同期を下回りました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,328百万円となり、前年同期(15,897百万円)に比べ3.6%の減収となりました。

利益面では、売上原価率はアップしましたが、販売品種と販売エリアの見直しや、人員削減、販売促進費の削減等に取り組んだ結果、営業利益は564百万円となり、前年同期(△378百万円)に比べ、943百万円の増益となりました。

#### <食品原料部門>

売上面では、“A-グル”や“澱粉”等が前年同期を上回りました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,019百万円となり、前年同期(6,549百万円)に比べ7.2%の増収となりました。

利益面では、円安による輸入原料価格の上昇の影響を受けて売上原価率がアップしたため、営業利益は204百万円となり、前年同期(488百万円)に比べ、△283百万円の減益となりました。

#### <その他部門>

売上面では、オフィスグリコ、スポーツフーズがいずれも前年同期を上回りました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,087百万円となり、前年同期(3,773百万円)に比べ8.3%の増収となりました。

利益面では、増収による粗利増等により、営業利益は189百万円となり、前年同期(7百万円)に比べ、182百万円の増益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は244,919百万円となり、前連結会計年度末に比べ25,556百万円増加しました。流動資産は114,403百万円となり、18,653百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金の増加、有価証券の増加となります。固定資産は130,516百万円となり、6,902百万円増加しました。主な要因は、投資有価証券の増加、機械装置及び運搬具の増加によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は100,864百万円となり、前連結会計年度末に比べ△2,151百万円減少しました。その主な要因は、借入金の減少によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は144,055百万円となり、前連結会計年度末に比べ27,708百万円増加しました。主な要因は、当四半期純利益9,681百万円、剰余金の配当1,793百万円、自己株式の処分による増加となります。この結果、自己資本比率は57.6%(前連結会計年度末比5.5%増)となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年10月30日の「平成26年3月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
  
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
  
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,889	26,501
受取手形及び売掛金	33,921	34,705
有価証券	18,658	28,256
商品及び製品	9,057	8,527
仕掛品	947	1,142
原材料及び貯蔵品	9,819	10,305
その他	5,759	5,095
貸倒引当金	△304	△130
流動資産合計	95,749	114,403
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	23,513	23,485
機械装置及び運搬具（純額）	26,333	27,740
土地	15,578	15,633
リース資産（純額）	529	519
建設仮勘定	3,078	1,474
その他（純額）	3,173	3,513
有形固定資産合計	72,206	72,367
無形固定資産		
ソフトウェア	3,006	2,312
その他	544	1,055
無形固定資産合計	3,551	3,367
投資その他の資産		
投資有価証券	39,548	45,655
その他	8,524	9,329
貸倒引当金	△216	△204
投資その他の資産合計	47,855	54,780
固定資産合計	123,613	130,516
資産合計	219,363	244,919

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	30,976	32,726
短期借入金	9,950	6,482
1年内返済予定の長期借入金	556	10,000
未払費用	20,126	20,744
未払法人税等	1,039	2,435
販売促進引当金	1,544	1,484
役員賞与引当金	44	—
事業構造改善引当金	448	28
その他	7,452	5,172
流動負債合計	72,138	79,074
固定負債		
長期借入金	15,367	5,364
退職給付引当金	9,758	9,248
事業構造改善引当金	105	105
その他	5,646	7,071
固定負債合計	30,877	21,789
負債合計	103,016	100,864
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,773	7,773
資本剰余金	7,442	7,413
利益剰余金	120,469	122,837
自己株式	△26,474	△6,611
株主資本合計	109,211	131,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,045	8,511
繰延ヘッジ損益	△41	—
為替換算調整勘定	△919	1,155
その他の包括利益累計額合計	5,085	9,666
少数株主持分	2,050	2,975
純資産合計	116,347	144,055
負債純資産合計	219,363	244,919



(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	224,590	246,202
売上原価	129,024	139,418
売上総利益	95,566	106,783
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	20,363	22,412
販売促進費	29,869	33,373
広告宣伝費	8,084	8,054
貸倒引当金繰入額	55	△166
退職給付引当金繰入額	1,143	1,230
その他	30,492	29,596
販売費及び一般管理費合計	90,009	94,501
営業利益	5,556	12,282
営業外収益		
受取利息	157	194
受取配当金	728	784
その他	1,252	1,345
営業外収益合計	2,138	2,323
営業外費用		
支払利息	164	192
繰延ヘッジ損益取崩額	196	67
その他	557	501
営業外費用合計	918	760
経常利益	6,776	13,845
特別利益		
投資有価証券償還益	17	611
投資有価証券売却益	22	312
受取和解金	224	—
その他	—	38
特別利益合計	264	961
特別損失		
減損損失	415	105
災害による損失	610	83
事業構造改善引当金繰入額	150	—
その他	500	9
特別損失合計	1,676	198
税金等調整前四半期純利益	5,364	14,607
法人税、住民税及び事業税	2,003	3,734
法人税等調整額	153	1,003
法人税等合計	2,157	4,737
少数株主損益調整前四半期純利益	3,207	9,870
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△463	188
四半期純利益	3,671	9,681
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△463	188

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,207	9,870
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,240	2,465
繰延ヘッジ損益	121	41
為替換算調整勘定	139	2,517
その他の包括利益合計	1,501	5,024
四半期包括利益	4,708	14,894
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,115	14,263
少数株主に係る四半期包括利益	△407	631

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年8月19日開催の取締役会決議に基づき、公募による自己株式の処分を行い、平成25年9月4日を払込期日として普通株式15,000,000株を処分しました。また、第三者割当による自己株式の処分を行い、平成25年9月27日を払込期日として普通株式2,250,000株を処分しました。

また、同取締役会決議に基づき、平成25年12月11日付で自己株式6,000,000株の消却を実施しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金が5,495百万円減少するとともに、自己株式が19,798百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が122,837百万円、自己株式が6,611百万円となり、株主資本合計は131,412百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額 (注) 3
	菓子	冷菓	食品	牛乳・ 乳製品	畜産加 工品	食品 原料	計				
売上高											
外部顧客への売上高	58,357	53,955	18,413	67,644	15,897	6,549	220,817	3,773	224,590	-	224,590
セグメント間の内部売 上高又は振替高	123	-	-	141	189	202	657	2,375	3,032	△3,032	-
計	58,480	53,955	18,413	67,786	16,087	6,751	221,474	6,148	227,623	△3,032	224,590
セグメント利益又は損失 (△)	△329	4,096	△286	853	△378	488	4,443	7	4,450	1,105	5,556

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツフーズ部門、オフィスグリコ部門、システム保守開発事業部門及び倉庫事業部門を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額1,105百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額595百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用510百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
重要性が乏しいため記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額 (注) 3
	菓子	冷菓	食品	牛乳・ 乳製品	畜産加 工品	食品 原料	計				
売上高											
外部顧客への売上高	72,497	58,956	16,861	71,452	15,328	7,019	242,115	4,087	246,202	-	246,202
セグメント間の内部売 上高又は振替高	438	-	-	146	168	192	945	2,513	3,458	△3,458	-
計	72,936	58,956	16,861	71,598	15,496	7,211	243,060	6,600	249,661	△3,458	246,202
セグメント利益又は損失 (△)	4,358	3,963	△110	2,405	564	204	11,386	189	11,576	705	12,282

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、スポーツフーズ部門、オフィスグリコ部門、システム保守開発事業部門及び倉庫事業部門を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額705百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額977百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△272百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
重要性が乏しいため記載を省略しております。

(重要な後発事象)

1. 重要な子会社等の株式の売却

当社は、平成25年10月30日開催の取締役会において、連結子会社であるグリコハム株式会社の全株式をエスフーズ株式会社に譲渡することを決議し、平成25年10月30日付で同社との間で株式譲渡契約を締結いたしました。なお、平成26年1月14日に株式譲渡は完了いたしました。

(売却の理由)

グリコハムは、ハム・ソーセージ、チルド食品などの製造販売を主な事業としており、エスフーズは総合食肉事業を手掛けております。当社グループは、グリコハムの株式をエスフーズに譲渡することにより、経営資源を成長分野に重点的に投下でき、またグリコハムにとっても、同社の原料の調達面及び販売チャネルの活用によるシナジー効果で、更なる成長が見込まれると判断しました。

(売却する相手会社の名称)

エスフーズ株式会社

(売却の時期)

平成26年1月14日

(当該子会社等の名称、事業内容及び会社との取引)

1. 名称 グリコハム株式会社
2. 事業内容 ハム・ソーセージ等の製造および販売
3. 当社との取引内容 商品仕入、運転資金の貸付、建物の賃貸

(売却する株式の数、売却後の持分比率)

1. 売却する株式の数 30,000,000株
2. 売却価額 780百万円
3. 売却後の持分比率 ー%

※当売却による当期決算業績に与える影響は、軽微であります。